

岩室君を偲ぶ

昭和19年卒 牧野 鐵五郎

岩室清君が遂に帰らぬ人になった。

平成11年正月の年賀状が今年に限って届かない。不吉な予感に襲はれる。案の定、七草の日に、奥様から、『実は、、、』と訃報が届いた。駄目だったか！悪い予感の的中に私は愕然とした。

長い海外生活も終わり、日本に帰ってからでも残念ながら健康に恵まれず、折角同志社航空部の応援をお願いしようと考えていた矢先のお知らせだけに、本当に残念である。

岩室君は昭和18年5月、盾津飛行場で飛行訓練を開始した。当時盾津では、関大の一山さんと同志社の私と門田君の3人が学生助教として、後輩の指導に当たっていたが、たまたま岩室君は私の班に編入になり、同志社の後輩でもあり、岩室君の面構えがエラク気に入って、最初の慣熟飛行から岩室君の印象はとても強烈に私の心に残った。その頃の記録をみると、岩室君と同時にスタートした仲間は川島隆男、寺井襄二、渡辺四郎、木下正一、岸田禎介君達だが、消息不明の寺井君を除くと、生存者は今や岸田君一人になった。

昭和20年頃、私が滑空飛行第1戦隊に所属して南方空輸に従事していた頃、たまたま大阪の伊丹飛行場に立ち寄る機会があり、懐かしさもあって、学連の宿舎を訪ねたら、偶然岩室君達が合宿していて、盾津以来の懐かしい再会を喜び合ったことがある。これも何かの因縁としか言いようがない。

あれから54年の歳月が過ぎたが、その時の岩室君の面影と先日奥様に見せて頂いた貫禄十分の岩室君の写真には何処か若い頃の面影が見られ、『オーッ！岩室君じゃないか！』と叫び掛けそう。だが悲しいことに彼はもう返事をしてくれない。心から、岩室君のご冥福をお祈りしたい。

岩室清に代わりまして

岩室 美智瑠



主人は小さい頃から同志社の東隣、毘沙門町に住んでおりました関係で、小学校を除いて、幼稚園、中学、予科、大学と同志社に学びました根っからの同志社人でした。昭和23年同志社大学政経学部を卒業、信和商会入社、貿易部勤務でパキスタンに約2年駐在、その後、昭和31年に野村貿易へ入社、ミャンマー、ケニア、タイ、アメリカに駐在、繊維、機械、船舶などの貿易業務に通算約17年間の海外駐在を含め平成元年まで勤務。このように殆ど海外生活に追われ、気になりながら、航空部のお世話も俟たずに居りました。

帰国後、何度かの入退院を繰り返しておりましたが、一昨年3度目の肝臓が発見され治療に務めましたのに、残念ながら平成10年3月19日に亡くなりました。

生前は、翔友会の皆様に一方ならぬ御交誼を賜りましたことを主人に代わり厚くお礼を申しあげますと共に、今後ますますのご発展をお祈りいたしております。取り急ぎお礼旁々ご報告まで。

